

平成30年1月22日 (月曜日)

生涯教育の先駆者 廣池千九郎 ゆかりの人 ⑦齋藤 實



齋藤 實
(国立国会図書館蔵)

廣池千九郎(法学博士、1896~1988)は昭和の初め、社会が戦争へと向かう中で、日本の指導的立場にある人たちにモラロジー(道徳科学)を理解してもらおうとしました。難局を打開する平和への道を探るためです。今回はそうした人たちの中から、齋藤實との交流を紹介します。

道徳科学の講演に
大変感銘を受ける

齋藤實は安政5年、現在の岩手県奥州市に仙台藩士の子として生まれ、志し、明治30年、海軍ナンパー2の次官に大抜擢され、軍政家となります。山本権兵衛海相の下で海軍の拡充に努め、日露戦争を勝利に導きました。その後、海軍大臣に就任し、日本海軍の近代化に尽力しました。

大正8年、齋藤は朝鮮総督に任命されます。就任初日には、南大門駅で手榴弾を投げられるなど手荒な歓迎を受けます。しかし齋藤はこれまでの「武断統治」から「文化統治」に切り替え、憲兵を廃止し、警察制度を導入。言論・集会・出版の自由、教育の普及、社会インフラの整備など次々に統治を刷新していきま

した。後に再任され計10年に及ぶ齋藤の統治は内外から一定の評価を得ています。

吐露します。これに対して齋藤は、目下の課題に忙殺されているが、根本的な問題の解決に着手する必要性はよく理解しているとの見解を示しました。

昭和7年、齋藤は第30代総理大臣に就任。内政では疲弊した農村救済に大きな成果を上げますが、外交面では情勢に逆らえず、昭和7年に満州国を承認、翌年には国連を脱退します。

昭和10年11月、齋藤は廣池が千葉県柏市に開設した道徳科学専攻塾(麗澤大学の前身)を訪問しました。大講堂で塾生たちに向けて講話を行い、「専攻塾の発展は世界の道徳の上に非常なる影響を持ち、貢献するところ大なりと思えます」と期待を示しました。

昭和8年4月、廣池は齋藤に長文の建議書を送り、財政や財閥、教育に關しての提言を行いました。また翌月の5月9日、廣池は首相官邸を訪問し、齋藤と面談。そこで廣池は道徳による諸課題の根本的な解決を迫り、この際あなたがやって下さらなければ、ほかに人物はありません。また私も再び他の人にかかることを話しにはまいりませ

ぬ人となりました。廣池の深い落胆が目に見えます。この翌年、日中戦争が始まり日本は泥沼の戦争へ向かっていくことになりました。

廣池と齋藤が最初に会ったのは、齋藤が朝鮮総督のときでした。大正11年4月、廣池は朝鮮総督府を訪ね、齋藤と懇談。意気投合したのか、総督府での講演を2度頼まれます。

(公益財団法人モラロジー研究所廣池千九郎記念館学芸員・矢野篤)